

第128回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1-1】東海村住宅防犯対策補助金の申請に係る意見とテクニカルリテラシーの向上について

東海村住宅防犯対策補助金の申請をしたところ、室内の防犯カメラ設置は防犯にならないという理由で対象外と判断された。このことに納得できなかったため、文書での回答を求めたところ後になって許可することになった。村民が手続きに時間を費やすことに対する意識が低いと感じる。また、補助申請の手続きが非常に複雑であり、設置の前と後で写真を撮るといったことは普通の人には難しいと思う。昨今の防犯対策関連製品には様々なものがある。より安価に安全対策が向上する製品について、デジタル改革推進課の職員など知識のある者が、スマホ勉強会のように何らかの形で製品の動作確認をしてあげるといった取り組みはできないか。

⇒【村長コメント】

防犯カメラを個人宅に設置することに対しての補助については、村として初めての取り組みである。県警本部からの助成により自治会単位で防犯カメラを設置した数年前の取り組みを参考にしていると思うが、今回提案いただいたような最新の製品や方法を職員が研究したうえで提案するといったことまではできていない。また、デジタル改革推進課の職員はオフィス改革や窓口のシステムに関わる部分を所管しているが、デジタルの全てに対応しているわけではない。今回のように知識のある方がアイデアとして提案してくれることは職員の勉強の機会になると思う。最新の製品などに詳しい職員も少なからずいると思うので、内部における勉強会などを検討していく。

【1-2】東海村原子力安全対策懇談会における委員の公募手続きについて

自身が東海村原子力安全対策懇談会の委員にならなかった理由について、役場ではどのように整理しているか。当初は自身の手続きに落ち度があるように説明を受けたが、後になって役場の手違いであると説明を受けた。どのように本件が整理されているかを知ることによって、役場が正常であるかを確認したい。

⇒【村長コメント】

担当課に確認のうえ回答する。

⇒【担当課コメント】

本事案の事務手続の経緯及び内容について、別途相談者へ説明させていただきます。

【2】不動産（共同墓地）の登記について

管理組合の代表を交代したため、名義変更の手続きをしているところである。これまでは手続きが手間なこともあって変えないこともあったようだが、現在の名義人が高齢であり、生前か死後かで手続きの手間が大きく変わるため、今回は名義変更することになった。費用も4万円程度かかる。（名義変更をしないようにするために）共同墓地を村に移譲することができるかを確認したい。管理はこれまでと同様に組合で対応する。また、6月か7月にある組合の集まりにおいて、今回の相談に対する村の回答を報告したいと考えている。

⇒【村長コメント】

共同墓地を村に移譲するということは、財産として村が所有するということになる。仏式だけでなく神式の方もいるため、東海村には共同墓地が多くあり、それらは任意の組織によって管理されている。他の組合も同じような課題を抱えていると思うので、そのことは確認したうえで本件を問題提起として受け止めるが、共同墓地の移譲を村で受けることについては、今すぐに対応することはできない。

【3－1】障がい福祉関係窓口について

障がい福祉関係の窓口が「絆」に集約されたことにより、自宅から遠くなってしまった。自身に障がいがあり、移動手段が限られるため、デマンドタクシーを利用しなければ手続きに行けない状況である。役場の窓口で手続きできるようにしてほしい。

⇒【村長コメント】

総合相談支援課に障がい福祉や高齢福祉の一部を移管したところだが、役場ではオフィス改革と窓口改革に取り組んでおり、福祉や医療といった住民の方の様々な手続きに係る窓口を一本化しようと考えている。また、役場に足を運ぶことなく自宅からオンラインで手続きができるように変えていくことも同時に進めており、なるべく住民の方が不便にならないように、役場の中を変えようと考えている。現在は福祉系の手続きがバラバラになっているが、福祉部の中の課の在り方だけでなく、現在の「絆」にある組織の在り方の見直しも検討している。遅くとも再来年度には体制を変えるつもりでいる。また、今日の話も含めて窓口をどのようにしていくか検討するので、窓口で住民の方と関わっている総合相談支援課に共有する。対応については時間をいただきたい。

【3－2】子どもの居場所づくりについて

なごみの子ども発達支援センターなどで講演させてもらっている。発達障がいの当事者として、言語化できる自分が伝えていくことが大切という思いで取り組んでいる。専門家の意見は多く見受けられるが、当事者の意見は貴重であり、それを必要としている人たちがいると考えている。グレーの子も含めて発達障がいの子は増えていると感じており、講演の機会を増やして多くの方に伝えたいと考えている。

⇒【村長コメント】

事実として不登校の子は増えている。これまで以上に生きづらさを感じている子は一定数いると考えている。様々な事情で学校に行けない子たちの居場所づくりはやらなくてはならないと思っており、自分の気持ちを素直に出せる場所を設けたいが、当事者の声をどのような形で聴くかといった課題もあり、内部で模索しているところである。教育委員会だけでなく、福祉的な視野も含めて広く捉えていきたいと思う。村で取り組みを進めていくうえで色々な面から協力をいただけるように今日の話は教育委員会に共有する。

【4】白方小学校付近の冠水について

白方小学校の近くに住んでいる。自宅の前面道路が低くなっていることもあり、大雨が降ると冠水してしまう。その際の深さは膝の高さくらいまでになる。近くにU字溝が入っているのにも関わらず水が捌けない状況である。役場の方には見に来てもらっており、側溝に入った畑の土は取り除いてもらったことはあるが、これから梅雨入りして大雨となる可能性が高まるた

め不安である。近くに白方コミュニティセンターがあり避難場所になっているが、そこに行くまでの道路が冠水するのは問題であると思う。また、冠水している状況でトイレを使用して逆流しては困ってしまうので、大雨の際は避難している状況である。

⇒【村長コメント】

この場所が冠水するということは把握していなかった。冠水するところは解消しなくてはならない。村内は排水路を整備しているため、基本的には流れるようになっているが、勾配がうまく取れていない可能性もある。畑の土でU字溝が詰まって流れないということは理由にならない。低くなっているところを上げるといった単純な対策では別の低いところへ流れていくだけになってしまう。状況を把握している担当課に確認のうえ、どのような排水対策ができるのか検討する。

⇒【担当課コメント】

この付近の雨水は相談者宅から白方コミュニティセンターの方へ流れる構造となっていますが、相談者宅付近の道路の高さが周囲の道路より低くなっており、道路の側溝に流れる雨量の許容を超える大雨が降ると冠水してしまう状況にあります。今後、大雨時の冠水軽減対策が図れるよう検討してまいります。